

# 大地の恵み

blessing of the earth

「共に語ろう! 水土里と  
あきたの子供たち」 地球人フォーラム 2004

vol.6  
H17.3

清水の郷 わくわく探訪 ~土地改良施設巡り~

食料自給率40%... フードマイレージって何?

水土里の路ウォーキング in あきた... 仁井田堰(秋田市) 湯沢大堰(湯沢市)

平成16年度活動状況





## プログラム

### 主催者代表挨拶

#### 平成16年度秋田県21創造運動表彰

- ・表彰式(秋田県21世紀土地改良区創造運動奨励賞)
- ・活動報告(平成16年度東北地方大賞推薦団体)

### 基調講演

「伝えよう！豊かな自然を子供たちへ」  
あん・まくどなると(県立宮城大学特任助教授)

### パネルディスカッション

「共に語ろう！水土里とあきたの子供たち」

「清水の郷 わくわく探訪」感想文朗読



平成16年9月4日(土)  
於:秋田拠点センター・アルヴェ(秋田市)

主催 / あきた 食料・環境・ふるさとを考える地球人会議  
後援 / 秋田県、秋田県消費者協会、秋田魁新報社、  
NHK秋田放送局、ABS秋田放送、  
AKT秋田テレビ、AAB秋田朝日放送、  
水土里ネット秋田(秋田県土地改良事業団体連合会)



(シンボルマークについて)

緑豊かな地球を守り、未来へ手渡したいという地球人会議の願いを象徴しています。  
緑の地球をシンボリックに表し、芽生えた新芽は、会員一人一人の地球に対する優しい思いやりの心を表現しています。

共に語ろう！水土里とあきたの子供たち

# 地球人フォーラム2004





高畑 進

あきた 食料・環境・ふるさとを考える地球人会議会長

この地球人フォーラムも今回で6回目を数えるに至り、このように大勢の方にお集まり頂きまして、大変ありがとうございます。厚く御礼を申し上げます。

さて、今年はお承知のように、例年のない猛暑が続ぎ、正に暑さの当たり年ではないかという感を深くしてしまいましたが、今度は激しい台風の当たり年にもなった訳でございます。国内の各地で非常に大きな災害・被害・事故が多発致しております。特に本県におきましても先般平成30年以降の「風台風」の影響を受けまして、折角の稲や果物など農作物全般に、また樹木全般に大きな被害を受けた訳でございます。まずもって被災された方々に、心からお見舞いを申し上げたいと存じます。

20世紀以降今日に至るもなお、科学技術というのは日進月歩の勢いで進歩をとげておりますが、しかしこうした中で自然の恵である気候一つによって、私どもの「命」を守る食料生産というものが大きな影響を受けている現実。そして、これが今や世界中の現象となっていることを考えますと、食料不足や水不足の将来に多大の危機感を憶えるものがございますし、また地球温暖化や生態系の破壊などといった地球規模での環境問題に強い関心を抱かざるを得ないものがあると存じます。

さて、このフォーラムを主催し

ております「地球人会議」の組織についてであります。世情様々な課題・問題が山積してある中で、健全な社会を形成していくに当たって田園社会の担うべき役割というのは大きなものがございます。特に農業・農村が持っている多面的役割と機能の維持・発展を図ることは、大変大事なことであるという認識に立って、これを実現するための推進的論点となっております。「食料」、「環境」、「ふるさと」について、広く国民一人ひとりが考え、発言し、そして行動することを目的として発足した組織で、全国的にその運動を展開しているところであります。

言つまでもなく、農山漁村は「土」と「水」という貴重な国民的資産を基にして、私どもの「命」を守り、そして育てる食料を生産すると共に、国土の保全、水資源の涵養、文化の保全伝承など、こうした大事な問題を担うかけがえのない場でもあります。同時にまた、その担い手となる住民が生まれ育ち、働き手としての活力を養い、また文化的生活を送ると共に、これを次の世代に残していかなければならない生活空間としての「ふるさと」でもある訳でございます。

こうした農業農村が果た

している役割や機能、そして実情というものを、次代を担う子供たちに直接触れて貰おうということで、秋田県土地連では七ヶ年前から小学生を対象とした「わくわく探訪」を実施してきましたが、今年地球人会議が主催して実施いたしております。普段あまり農業・農村に接することが無い秋田市と大曲市の小学生と保護者約百七十人を対象に、バス四台で県南の六郷町、千畑町等を訪問し、六郷の湧水群の他、水路をはじめとする農業施設や田んぼの生物を見学・観察などしてもらいました。

後程その模様の一部を御紹介申し上げますが、本日のパネルディスカッションのテーマであります「共に語ろう！水と土とあきたの子供たち」の参考にしていただければと存じております。

今回のフォーラムは、今までと少し趣向を変えて企画をいたしております。その第一はこの会場でございます。「お承知のようにこれまでの会場は児童会館で実施をして参りましたが、今年7月にオープンしたばかりのここ市民交流施設アルヴェエを使わせて頂きました。

は特に今回のテーマは「子供たちに伝えたいもの」ということであり、また「農業は母なる大地の賜」というようなことをふまえてのこととございまして、活発な御議論を期待したいところであります。

第三は、秋田県21創造運動の表彰と活動報告を取り入れた点でございます。この「21世紀土地改良区創造運動」というのは、農業生産の基盤である水と土を守っている各地域の土地改良区、現在は改良区の愛称を「水と土ネット」と名付けておりますが、この水と土ネットが主体となりまして、農家の方々と一体となって維持管理に努めている水と土が、農業生産はもとより、緑豊かな景観や地球環境を守っている実情というものを農業以外の人たちに十分理解してもらうために、いろいろな活動を行っている運動であります。本年度から模範的な活動を行っている水と土ネットに対しまして、その御努力を称えるために、この場をお借りして、表彰申し上げます。その活動内容を報告して頂くことに致しました。

第二は、プログラムのご案内のとおり、本日の基調講演をはじめ、パネルディスカッションの参加者は全員女性ということであります。これ



# パネルディスカッション



コーディネーター  
佐々木 恵子  
AKT秋田テレビ  
アナウンサー

女性の視点から、水と土と子供たちをを考えていきます。

佐々木恵子 皆様こんにちは。ここからの進行を努めて参ります。AKT秋田テレビの佐々木と申します。私は五城目町の出身で、小さい頃はお人形さんには目もくれず、沼でタニシ捕りをし、山でカブトムシを捕まえてという、全くの自然児でした。また秋田市で祖母が農家をしており、トラクターに乗って田んぼに行き、夏にはモモ畑で遊んでと、自然や農村は私にとっての原風景でもあります。また秋田テレビ入社後は、ニュース番組またJAの番組を通して様々な農業現場を取材させていただきました。とは言っても全くの若輩でございます。今日はパネリストの皆さんの話を伺いながら、自分の中の土壌、田んぼを少しでも耕す事ができたらと思っております。どうぞよろしくお願いたします。

さて、今日のテーマは「共に語ろう! 水と土とあきたの子供たち」です。この「みどり」というのは、一般的なグリーンではなく、「水・土・里」と書くんですね。これは土地改良区が展開しています農村環境を守り育てる運動「21創造運動」の愛称となっていて、農

業や農村、自然、ふるさと、そういったものを総称した言葉、それが「水と土」という事なんですね。今日はこれがキーワードになって参ります。このテーマに沿って、未来を担う子供達に、農村、そしてふるさとの素晴らしさを、どんな風に私達大人が伝えていけたら良いのか、そんな事をパネリストの皆さん、そして会場の皆さんと一緒に考えて参りたいと思います。それでは、パネリストの皆様方から自己紹介を兼ねまして普段「水と土」について感じていらっしやる事を伺って参りたいと思っております。お気づきと思いますが、このフォーラム6回目にして初めて全員女性という形で今日は進めて参ります。あん・まくどなるどさんからお願いいたします。

## 旅人としての観点から...

あん Thank you・My name is あん・まくどなるど。他のパネラーのお話を進めさせるために、挨拶をここで終わりにします。旅人として日本全国を歩き回っていますので、松山町(宮城県)に拠点を置きながら旅人として見ている自分の話を中心にしてパネルディスカッションに参加できればと思いますので、よろしくお願いたします。

## 子供たちに豊かな自然体験を!

津谷 寺内小学校の津谷ゆき子と申します。地球・自然大好き人間で、50年間とちよつと生きて参りましたが、子供の頃遊んだ田園風景・山・川・田んぼ、その中で経験した事が、いかに自分の人生を豊かにしてくれていたかという事を、この頃つくづく感じます。今いろんな事をいろんな場面で考えさせられる機会がありますが、その時に何を基にして考えているかなと思つた時に、やはり小さい頃からの学び、体験、それからの人生を生きてきての経験、そして今という感じで、今まで生きてきた事が土台になっているなど最近痛感します。学校で何を考えているか? 私達大人が今してあげなければならぬ事は、子供達に豊かな自然体験をしてあげる事ではないかなと感じています。

今日、「地球人フォーラム2004」という素晴らしい会議に、パネリストとして出てみないかとお誘いがあつた時に、「あきた食料・環境・ふるさとを考える地球人会議」というのがあつて、素晴らしい活動をしている事がわかりました。そして考えや思いが、私と同じではないかなと喜んで参加させて頂いております。本日は、よろ

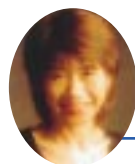
しくお願いたします。

## 自らが学ぶため・体験するために参加。

佐々木(智) 佐々木智子と申します。グリーンツーリズムの実践者という事で今回のフォーラムに参加させて頂いていますが、グリーンツーリズムだけをとりえると、私はまだ農業体験をする中学生を受け入れて4年目です。始めたばかりの者がこういふ席に立つことが非常におこがましいのですが、自分が経験して、子供達に伝えたい事、伝えてあげられたらと思われれる事を、今日は皆さんと一緒に話して、自分が学ぶために、体験するためにここに座らせて頂いておりますので、よろしくお願いたします。先程あん先生から素晴らしいお話を伺いまして、それを参考にさせて頂いてこれからディスカッションに参加したいと思つてます。

## 大自然から人間愛を受けて...

鈴木 私は大自然の中の鳥海町から来ております。先程から皆さんが申されているように、農業、そしてふるさとと良さというものを今じわじわと味わっている年になりました。小さい時から、「学ぶ」というよりも、自然に体で受けてきたいろいろな「体験」が、今振



パネリスト  
鈴木 トシ子  
あきたF・F  
推進委員



パネリスト  
佐々木 智子  
西仙北町グリーンツー  
リズム推進協議会員



パネリスト  
津谷 ゆき子  
秋田市立  
寺内小学校長



パネリスト  
あんまくだなる  
県立宮城大学特任助教授  
(カナダ出身)

り返ると心の豊かさや農村、祖父  
母、周りの地域の方々との間接的  
な人間愛を頂いて来たように思っ  
ます。

「21創造運動」も、それを今、私  
達が生かす必要があればいけないの  
ではないか、知ってもらいたいとい  
う気持ちから始めて、地域が一  
体となってそれらを見守っていき  
たい、そして秋田の子供達を未来  
に向けて、そして地球の子供達を  
大きな世界に羽ばたけようとい  
う、私の小さな胸から、大きな世  
界へ飛び立てよう、そういう  
思いで今日は勉強させて頂きなが  
らこの席に入らせて頂いています。  
今日はよろしくお願いたします。

### 教育現場での実践活動を 紹介してください。

佐々木(恵) では、本題に入って  
参ります。まずは「子供たちと水  
土里との関わり」についてです。  
最近「農業離れ」で、家が農家であ  
っても農作業をした事が無いお子  
さんがとても増えていきます。確実  
に自然との関わりが減ってきてい  
ます。ピーマンやニンジンが木に  
なっている、そんな風に思ってい  
るお子さんも少なくない訳です。  
こうした事から、いかにして子供  
に農業や農作業、そして自然との

関わりを持たせてあげる事ができ  
るのか、これが第一歩になってく  
るのではないのでしょうか。こうい  
った事をまず教育現場で実践して  
おられるのが津谷先生ですが、そ  
の活動を始めにVTRでご紹介し  
たいと思います。

「VTR」は寺内小学校「ダツシユ  
村」の活動の様子」

佐々木(恵) はい。ダツシユ村と  
いう事で活動を進めていらっしや  
いますけど、津谷先生、大瀧村に  
実際にこうした畑があって、児童  
の皆さんと一緒に育てている訳で  
すよね。始められたきっかけから  
まず教えて頂けますでしょうか？

### 「ダツシユ村」：体験す ることに意義がある

津谷 ダツシユ村はスタートし  
たばかりです。今年からスタート  
してこれから発展するという風に  
考えておりますが、実は大瀧村の  
教育委員会さんの方で田んぼや畑  
がない町場の学校に貸して頂ける  
というお話がございました。その  
時に本校でも畑が欲しいなと思っ  
たんですが、学校の学習農園、小  
さな畑はございますけども、やはり  
広い所で、子供達が直接体験でき  
るような所があればと思ってお

願いしてお借  
りした訳です。

今、世の中の  
子供達が少し変  
になってきてな  
いかな？と思う  
ことがあります。  
新聞、テレビで  
放送される子供  
達の姿を見て、  
何か足りないも  
のがあるのでは  
ないかなと良く  
感じます。そう  
思っている時に  
自分の体の事を  
考えました。今、  
多少育ちすぎの  
状態で、脂肪もちよつと多めに育  
つてますけど、全部土から育った  
食べ物で頂いてこの体ができてい  
ると思つたのです。「じゃあ、畑でと  
れたものだけじゃないでしょ！肉  
も卵もあるじゃない！」と考える  
んですが、でも考えてみれば、肉  
も卵もみんな何で育っていますか  
か？やはり土から生まれた、そし  
て収穫されたもので育っている  
と考えると、土がいかに大事かを考  
えます。そこで、子供達には直接  
土に触れてもらいたい、水をかけ  
たり、世話をしながら育てる体験を  
してほしい。そして育てる中で植物



「アツ、こけちゃった！」第7回写真コンクール入賞作品

が枯れる「命」ということも体験  
してほしい。そして、食べ物も大  
事だと思つた訳です。より良い食  
べ物を私達は頂きたいものだと思  
つと、栽培することの体験、大き  
く言えば農業体験になるかと思  
いますが、非常に子供達の心、体、  
知恵、思いやり、我慢、いろんな  
ものを育てる事ができるのである  
と思つた訳です。子供達は土を見れば  
汚い、泥を見ればイヤだ、虫を見  
ればもう近づかない、そういうの  
ではなくて、やはり自然に直接関  
わる事を体験してほしいと思つて、  
ダツシユ村に参加させてあります。

# パネルディスカッション

ですから大瀧村の教育委員会様には松岡教育長さんを始め大変お世話になっていますが、感謝の気持ちでいっぱいです。

その参加の状態ですが、今は保護者も巻き込んで土曜日に出かけます。そうすると交通手段が必要になりますから、自然にお父さんお母さんが来て下さいませ。行きたいなと思っていた子供を連れてきてくれたり、お父さんお母さん達の中で経験させたいなと思ってる方々が、行きたくもない子供を連れてくることもできます。そういう感じで、体験する事に大きな意味を感じてダツシユ村を進めているところです。

私達は「食べる」事から離れて生きてはいけませんので、食べるという事、今「食農教育」が教育現場で言われるようになってきました。「食」と「農業」、「つまり生産する事を大事に教育活動の中に入れて行く」という活動も進めてきています。本校のVTRに登場した竹内先生は、単なる収穫して食べればいいのではなくて、大豆であれば豆腐、納豆にできるじゃないか、蕎麦であれば種蒔きもしましたけど、収穫して蕎麦打ちして粉をひいて、お蕎麦をつくって食べる体験もできるのではないかとという事で、色々な可能性を考えながらダ

ツシユ村をやっているところです。

## ヨーロッパは

### 自然志向が高いとか？

佐々木(恵) この春から始めたダツシユ村の活動、今県内の小学校でも学校農園、学校菜園がなされていきますけど、寺内小学校さんでは児童だけではなく保護者も巻き込んだ活動に発展しているようです。そういった農業との関わりを持つている訳ですが、農業に対する関心も最近では薄れてきていると。この辺をあん先生、ヨーロッパは自然志向が高いと言われてますよね。逆に秋田の子供達は今どこからかという都会志向に傾いてしまっているのかなという気がするんですけど、その辺りはいかがでしょうか？

## 旅人の私が感じていること...

あん カナダ人がヨーロッパの事を述べるといふのは恐縮ですけど、70年代スウェーデンに住んでいた頃の時代を思い出しながら話をすれば、私の家族だけではなくて、周りの家族も週末になると町を出る傾向が強かったですね。「町に行く」というより、「町を出る」傾向が強くてカナダも似たようなところがあるような気がします。町に住んでいる人達は、できるだ

け町を離れて、美味しい空気を吸って、良い所で一服する、というのがあるんですけど。

これはちょっと質問から外れるんですけど、私は日本に来て、農村に住む人達が、農村を都市化しようとしている姿をすごく不思議に思っていたんです。農村は農村の良さがあるから、都市の真似をしなくていいし、都市のようになる必要もないですよ。農村はある程度の生活水準を都市型にしていくのは当たり前の事だとも思うんですけど、生活のリズムとか景観、建物、全て都市のようになる必要はないと思っんです。東京の影は隅々まで追われている部分があるような感じで、農村はそこから脱出していく必要があるような気がするんですけど、自分達が持っているものを表に出して磨いていることは、少しずつそれが見えてきたんですけど、旅人として週末になるといつもスケジュールを見ながら、移動を考えたりするのは、金曜日の夜は仙台から東京、あるいはどこかの地方から大きな町には行きたがらないんです。なぜかと言つと、ラッシュで満員電車でもみんな上京していつてるんで、できるだけは避けたいんです。週末、土曜日の朝だと5、60代の方が地方に向かってるんですけど、

金曜日の夜は若者が町に出て行って、週末は山歩きとか山小屋に行くことしてる年配の方がいて、そこをもう少し年齢問わず、週末でも都会から足を運べるような世代作りがあってもいいのではないかなと思っんですけど。

しかし、少しずつ変わっていくような気がして、今年の8月北海道と東北を旅した時に感じている人が増えていたので、大都会を求めて休みを過ごす人間ではなくて、自然の中で時間を過ごすこととして若者が増えてきている事は、良い傾向ではないかと、旅人の私は感じました。

## 修学旅行の生徒はどんな感じですか？

佐々木(恵) 特に若い人達、地方の人達の都市志向がふくらんでいる中で、良い傾向も見えやすよというお話でした。佐々木さんは東京の修学旅行の生徒さん達の農業体験を受け入れていらっしゃるんですよ。そこでどんな事をお感じになってますか？

## 自然の厳しさ、優しさ、

### 暖かさ、大事さを

### 子供達に！

佐々木(智) 私は東京都内の東大



和中学と西新井中学の修学旅行の受け入れをしているんですけど、家に来る時は集合場所まで車で迎えに行きます。集合場所から我が家までは車で10分位ありますが、その車の中で「今回の修学旅行どう思う?」と聞くと、私、今「どう思う?」なんて標準語使ってますけど、子供達には秋田弁で語りかけます。すると「ぼかーん」とした顔をするんですね。「今回の修学旅行なんと思っ?」と言ってもイントネーションや概ねの所はわかると思うんですが、全体の意味はつかめないような「ぼかーん」とした表情をするので、その後で、「今はこつこつ風に聞いたんだよ。」と話します。すると、「本当はイヤなんだ。なんでわざわざ修学旅行で、秋田で農作業体験なんてしなければいけないだろう!」という答えが返って来ます。我が家は幸い両親も健在で、とにかく修学旅行生が来たら、みんな秋田弁で通すようにと家族で話しています。そうすると私達以上に両親は本当の秋田弁なので、子供達は何を言っているか分からない状態なんですけど、言葉の暖かみは感じてくれるんです。私が中に入って、「今はおじいちゃんがこつこつ言っただけ、こつこつ事だよ。」って言うと、「はあ?」とこつこつ言っんですね。「秋

田なので何でも「こ」を付けるんだよ。がっこ、ちゃわんこ、はしっこ...」そうすると「お母さんこ」って言っんですね。「いやあ、お母さんこ」とは言わないで、お母さんだよ。昔ならお母さんの事を「あは」、お父さんの事を「おど」が



「一休み」第7回写真コンクール入賞作品

ヤージの裾をひざままでめくって、「全部ぬれても大丈夫だから、足が素足だったら洗えばいいけど、ズックや靴下をはいてしまつと洗うものが増えるから裸足でやろっ!」と言つこと、裸足でやつてもらいます。畑の作業だと、野菜の丈の伸びるものと、支えを立てな



「体験学習」第7回写真コンクール入賞作品

田舎の言葉なんだよ。」と言ったら、子供達は「家に帰ったらおど、あは、帰ってきたよ」って言おうかなんて冗談を言ってくれます。農作業体験ですが、我が家は畑と水田です。雨の日の場合はどこかく裸足になってもらいます。ジ

しておきます。家族と併せると7人位でその1200本やる訳ですから、計算すると一人あたりどれくらいになるかわかると思うんですけど。初めて農業をする子供にとって何百本という支柱をやる作業はかなり大変。これが農業だと言つことをわかつてもらいたいです。ただ、出来たものを見て、新潟のコシヒカリがいいとか、秋田のあきたこまちがいいとか、そういう事ではないんです。それができるまでのところを、肌で感じて帰ってもらいたいです。だからわざわざ大変な作業を残しておきます。午後は田んぼに入ってもらいます。女の子はまず入るつもりません。私が手を引っ張ってグリグリ入れるんですけど。最初入れた時にどういふ感想か?1年目の時にはどういふ事を言うのかと思いました。そうしますと、子供達は田んぼの泥の中は冷たいと思ってるんです。ところがぬる暖かいといふか、ぬるま湯につかったような、そんな感じなんです。足の指の間に「ぬめ」つと泥が入ってくる感触が気持ち悪いけど、気持ち良い。これは東京にいたら絶対味わえない。子供達が文集や手紙を帰ってから送ってくれるんですが、どの子の文集にも手紙にも、「泥のぬめつとした」といふ文章が

# パネルディスカッション

必ず書かれています。多分私の子供でさえその感触はわからないと思います。私はその感触を自分だけではなくて、家族にも話してきていると思います。その子が大人になった時に、自分の子供にも伝えてほしいんです。農業は、テレビで見るだけではなくて、非常に厳しいことを知ってもらいたいんです。家族の中では田舎生まれの方もいらっしゃるかもしれないので、そういう話を聞く機会のある子供もいるかもしれないですけど、ただ我が家に来なければ体験はできません。そういう事を子供達に伝えたいなと思ってこのグリーンツーリズムの一員を勤めさせてもらってます。

ただ、逆に子供達から学ぶ事もたくさんあります。普段自分では何とも思っていない事が、子供達には新鮮に見えるんです。田んぼの草もちよと子供達が来る時は一番草を刈る前です。「この草ってこれ以上伸びないのか？」と聞かれます。「これから伸びるから機械で刈るんだよ」と言つと、子供達の「刈る」っていうのは、草刈り機械は想像できてないですね。小さな鎌を想像してます。「そんなのでやっていたら仕事が追いつかないだよ」と言つと、「何で刈るんですか？」と言つからその機械を

見せてあげます。例えば、草刈り機械であつても、トラクターであつても、耕す機械であつても、私達は道具としか見てないですけど、子供達は「どんなふうに使つかか？」とか「この機械を使うことによって、お母さんがどれだけ楽ができるのか？」とか、私の中で子供達から返ってくるだろつと思つてきます。それは自分にも新鮮ですし、子供達を受け入れて良かったなと思つ瞬間なんです。

一番私の子供達を受け入れて嬉しと感じるのは、子供達が帰つて行く時に、うちに来たらまず私が母さんで、主人が父さんで、両親がじいさん、ばあさんという事になっているので、帰るまで私は「秋田の母さん」という事になっています。「秋田の母さん、あの田んぼの中に足を入れた時の、あの暖かさは母さんの暖かさだね」と言われた時は、ほろつとくる瞬間です。その言葉を私は糧にして、これからも体験の受入れをしていきたいと思つていますし、子供達にはそういう自然の厳しさ、優しさ、暖かさ、それらがどれだけ大事かという事を向こうに帰つて伝えてもらいたい。伝えなくても知つてもらつ事がきつといつか伝える事になるのではないかなと思

つて、微力なんですけど、これからも受け入れ出来ればいいなと考えてます。

佐々木(恵) 秋田に来る時は嫌々という生徒さん達も、帰る頃には表情も変わつていると、いろんな効果が出ています。また鈴木さんは土地改良区時代、21創造運動でこういった自然体験、農業体験などいろんな運動をなさつてきたと思つんですけど、ご紹介頂

## 21創造運動を契機に、地域ぐるみで体験を。

鈴木 土地改良区が「水土里ネット」と名称も皆さんに親しみやすくなつたと思います。土地改良区と言つと、農業関係の方々ほとんどおわかりになると思いますが、非農家の方々も、具体的な内容がわからない人がほとんどです。「土地改良区です」と言つと、「それはどこですか？」、そういう言葉が必ず返つてきました。やはり農業を知つてもらつためには、そういう地域から、先程都会のお子さんの受け入れをしている話がありましたけど、逆に都会よりも、田舎というか農業の地盤の方が縦割りになつていて、浸透してないのがすごく目に付きました。特に

若い人は会社勤めで農業から手が離れていつて、やつている方々は高齢者が多い。そして近代化になつて、大きな機械でほとんど作業する事が多くなりました。私達が子供の頃は、手伝つと言つと、非農家も関係なくみんな田んぼを維持管理してきた時代ですけど、今は近代化が進んで、農業に直接子供が入れない。危険だからと言つて、なかなか農業に入れない状態が目につきました。

土地改良区は水や施設の管理、田んぼの災害時の発生で動きませんが、それらをもつと地域に浸透させなければいけないのではないかなと思つました。水の大切さという事で、田んぼには必ず水が必要で、その水がどついつ形で来ているのか、小学生に質問しました。ところが「どつこから来るのだから？」という言葉が返つてきたのは私もびっくりしました。自分達の田んぼに水路はあるけれど、その水路がどこからどついつ流れてくるかわからないでいます。そういう機会が私達の時みたいにはなくなつてきているのが現実です。それをどつこにかしなればと思つ、最初は紙芝居を自分達で作つて、小学校と保育園で見せました。実際肌で感じた方がもつとわかりやすいと思つまして、小学校では毎





(写真右)「担い手？」第7回写真コンクール入賞作品  
(写真左)「僕の大好き」

年、田植えは昔のまま型を付け手  
植えてやってますけど、それも土  
地改良区で協賛で手伝いをしてま  
す。その中で田んぼに使う水、み  
んなが家庭で火事の時に使う水、  
どこから来ているのか、そういう  
ものを紙芝居の中に入れたとして  
も、実際に感じなければわから  
ない。今、笹子で工事をしている  
水路を大きくしています。その水  
路が完成した所で、実際その場所  
で、その水の流れが、山から沢水、  
そして川に入って、川から水路に  
入って、そしてまた川に帰るんだ  
よという勉強会をしました。子供  
達に感想文、アンケートを書いて  
もらうと、「初めて知った」「今度  
現場に行ってみよう」という声も  
ありました。

その大きな新しくなった水路で、  
直接楽しみながら学ぶ方法はない  
かという事で、役員の方と考えて、  
アユを放流してつかみ取りさせま  
した。子供達は喜んでましたが、  
水路の中はなかなか歩けないんで  
す。一昨年にボランティアで川遊  
びをさせました。その時にも川を  
歩けないんです。大自然の中にあ  
る鳥海町の子供達が川遊びをでき  
ない。なんでだろう？私達の時に  
は夢中で走つてのに、川で泳いで  
遊んだのに、どうしてだろう？と  
考えました。私達の世代までは、

大自然の中で学ぶことも多かった  
のですが、段々と若い層になって  
次第に、勉強、梓の中の生活が  
ほとんどで、危ない所に行つては  
いけない、水に入つてはいけない、  
これはいけない、あれもいけない、  
そういう中で育つた子供がほとん  
どです。その世代の方々が今親に  
なつていいると思います。そうなる  
事で、教えていく親自身がわから  
ない。先程あんさんがお話してま  
したけど、大人の育成もこれから  
は必要なのではないかと感じまし  
た。親子で体験をやりながら、  
徐々に自然を学ぶ機会を数多くし  
て、「21創造運動」を中心に地域ぐ  
るみで子供達の心の豊かさ、自然  
の大切さをわかつて頂きたいとい  
う、そういう実感がありました。

佐々木(恵) はい、今の親さん  
達はなかなか子供達に自然の大切  
さ、良さを伝える事が出来ない。  
そういった意味でも、土地改良区、  
水士里ネットの運動は貴重な機会  
になつてきていると思います。  
ここで、この夏水士里ネットが  
行いました活動の一つ、「清水の郷  
わくわく探訪」をご覧ください。

「VTR」清水の郷 わくわく探  
訪(土地改良施設巡り)の様子

## いろんな角度からのアプ ローチが必要。

佐々木(恵) はい、たくさん秋  
田の子供達が参加しました、地球  
人会議がこの夏行いました「清水  
の郷 わくわく探訪」でしたけど、  
こうした経験を通して、子供達が  
水、土が食べ物を作るだけではな  
くて、いろいろな働きを持つもの  
なんだ、そしてふるさとの良さを  
再発見をしたようです。農作業体  
験はもちろん、色々な角度からア  
プローチしていく事で、自然に対  
する考えのバランスも子供達は培  
われるものではないでしょうか。

こうした土や水の生産以外の働  
き、自然の多面的機能と言うそう  
ですが、私も実はあまり詳しくは  
ないんです。こういった多面的機  
能については、大人も理解する必  
要があると思います。いろんな働  
きがこの自然にはあるんですね。  
そういった事から津谷先生、ちょ  
つとお考えになつていいる事があ  
るようです。

## 秋田の田園風景は宝物！

津谷 田んぼは単なる田んぼで  
はない。北海道から秋田に帰つて  
くる時に、数年前飛行機の窓辺か  
ら下をずっと眺めてきました、田  
白神山地の紅葉の素晴らしさ、田  
んぼの黄金、黄金色です。金を敷

き詰めたみたいで黄金色の田んぼ  
がずっと続いて、すごい景観で  
した。これは宝物だと思いました  
けど、そういう畑、田んぼ、牧草  
地、果樹園とか、そういうのも大  
事なふるさとの景観、風景をつく  
つていいると私は思っています。で  
すから単なる田んぼではなくて、私  
達の心の中に生き続ける、心の肥  
やしになつていいる景観をつくつて  
いいるという事を一つ憶えておきた  
いなと思つていいます。

もう一つは水辺が、いかに地球  
の自然を守つていいるかを忘れては  
いけないと思つていいます。田ん  
ぼだけではなく水辺もまた、いろ  
んな生き物を育てていいます。水  
中にはヤゴが生まれたり、オタマ  
ジャクシが生まれたり、それを取  
り巻くいろんな動物が生息したり、  
大事な生態系の一つだと思えば、  
その水辺も大事にしていきたいと  
思つておられます。先程、川で遊べ  
ないというお話がありました。学  
校でやはり禁止していいます。草生  
津川に一人で行つてはいけない！  
とか、海に行つて親の言うこと聞  
かないで勝手なことをするな！とか  
怒ります。いろんな意味で禁止禁  
止がいっぱいあるんですけど、あ  
ん先生に怒られそうですけど、私  
は小さいうちから水辺、山、川で  
いっぱい遊んでます。だから危険

性が体でわかるんです。あそこに行く草が滑って深みにはまるとか、乗せると滑って深みにはまるとか、そういうのがわかるのです。今、子供達は体験がないから草が滑って、水辺に落ちるんだという予測が付きません。ですから禁止しちゃうんですね。

「秋田県ふるさと森と川と海の保全及び創造に関する条例」というのができまして、水と緑の基本計画がつくられたんです。ご存じの方がたくさんいると思います。水にも親しめる秋田県という事で森を守ったり、川や沼を大事に考えながら、いろんな事を行政の方も、例えば土地改良区がして下さっていると思います。それから河川工事をする役所の方でも気を遣ってくれていると思います。学校でも子供達に水に触れさせるように、水に触れる体験の場、遊びの場を作ってあげたいなと思ってる所々なんです。秋田県民みんながそういう考えになっていくと変わってくるかと期待しているところです。

## 水土里を子供たちに伝えていく方法は？

佐々木(恵) 「あそこに行つてはダメ」「これをしてはダメ」という制限が多い中で、制限があるから

こそ、私達大人がきつかけをつくらせてあげる事が大切だと思うんですけど、水土里の大切さを子供達に伝えていく方法があるあると思います。私達は段々そういう環境が減ってきているとはいえず、まだ少し足を伸ばせば、手を伸ばせば山や川が秋田には近くにあります。鈴木さんは、地域の子供達を巻き込んで伝えていく手段をとってらっしゃると伺ったんですけど、その辺りのお話をお聞かせ下さい。

## 地域が、家庭が子供たちを育てる。

鈴木 今、近代化になりすぎて、子供達が手伝いたくても手伝える事がないとよく言ってますよ。近代化になってても農作業の補植とかはやはり人手でやると思っていますね。私も補植をしていると、近所の子供達もそこら辺で遊んでいるので、その場で叫んで「こっちけー、おめだもつけれー」と言うと来るんですね。「やってみねが」って言えば「でも長靴ないから」って言うから、「長靴ないなら裸足でやれ」って言う、すぐ脱いで、そのまま田んぼに入って楽しんでる姿を見ると、こうやって少しずつ学ばないんじゃないかなと思います。私が田んぼに入つてい

ると子供達が周りに寄ってきて必ず「入つてもいいかあー」って聞くんですよ。そういう嫌々やるのではなくて、自分がやってみたい時にやれるチャンスが子供達に必要じゃないかなと思います。「ダメだ、おめだは下手だから！」と云ってなかなかやらせてあげないというか、やれるチャンスがあったのに、なんでやらせてあげないんだらうな？と思います。私が近所の子供達10人位を田んぼに入れると「それだば補植でなくて、かえって悪くなるんだ」と隣の母さん達によく言われるんですけど、「それでもいいじゃない、稲はちよつとくらい横になつても、必ず立つんだよ。」と私は言い返すんですけど。

自分もFF推進委員で男女共同参画を行つてます。男女共同参画となると難しい感じがしますが、「男の人」「女の人」じゃなくて、地域みんなが助け合つて1つの社会をつくるという事だと思つてですね。だから地域がみんなが助け合つて、地域の子供達は地域で育てる、家族で育てる、それが一番大切だと思います。

佐々木(恵) 地域ぐるみで子供達を育てていく、そんな取組み、手法で子供達に水土里について伝え

ている鈴木さんです。そしてもう一つ、先程も出ましたけど佐々木さん、「グリーンツーリズム」この手法も最近はどうどん広まりを見せていますね。

## 子供の芽を育て膨らませるのは、大人の役割。

佐々木(智) 今、全国的に展開されているようなんですが、ただそこに参加して頂くのが、主になっていますけど、こちらから自然を持って行くという事も出来るわけです。決して田んぼを持っていく訳ではないですけど、田んぼで出来た作物を届ける事は出来るわけですね。そういう機会をもって、子供だけではなくて、お子さんのご家族を巻き込んで私達が出向いて、グリーンツーリズムの活動の内容を、自然の大切さ、自然と向き合つて行く事の大変さなどを伝える事はできます。例えば、子供は環境は選んで生まれてはこれない、まあ、人間は誰でもそうですけど、その環境を少しでも子供の芽を育てて膨らましてあげれるのは、やはり大人ではないかと思えます。

都会の子供達は精神面で大変な時代になってきています。でも病院の精神科の先生であっても、自然の多い所に行くとしは癒され



「実習体験」第7回写真コンクール入賞作品

ると、アドバイスしてくれる先生もいます。自然はそれだけ力があるのだと思います。それをグリーンツーリズムを通じて伝えていければと思います。これに係わっている私達だけではなくて、伝える事ができるのはこの会場に来ている皆さんもそうですし、子供達もそういう気持ちはあっても行動に移せないのが現状だと思います。それを育ててくださるのが、きつと津谷先生とかじゃないでしょうか。

**食農教育について、現場ではどのように考えてますか？**

佐々木(恵) はい。グリーンツーリズム、都会から家族で来てもらっただけではなく、地方からも発信できるというお話でしたよね。自然と触れ合って、心豊かな子供達を育むためには学校だけ、地域だけという、一個体ではなかなかうまくいかないという事ですよ。そういった意味では秋田県全体

も良い方向に働いている、動いているのではないかとのお話もありました。今、秋田県も「食育」と言つことが叫ばれていますけど、この辺りはどんな風に現場では考えていらつしゃいますか？

**“地産地消”から、価値観を考える。**

津谷 子供達は毎日食べる学習を“学校給食”として組み込まれていますので、給食を通して“食育”の基本を学んでいる事になります。その中で、“地産地消”の給食が年に何回かあります。去年辺りからです。その時に子供達も職員も「今日は給食がいいぞー」と喜びます。なぜかという土地元の野菜は新鮮で安心という事と、味が良いという事があります。ですから学校給食では喜ばれています。でも、量が獲得できないとかで、なかなかそうならないようですけど。

“食育”が大事にされてきて、学校では給食のマナーや栄養価の勉強とかしますが、秋田の素晴らしい所の一つに“きりたんぼ”があります。栄養のバランスを考えた時にグラフをつくります。子供達の食の授業の時に、朝・昼・夜の食事を調べて栄養価を考えて、自分の健康を考える勉強があるのですが、その時に前の日にきりたん

ぼを食べた人の栄養価がすごくバランスが良くて、理想的な食事でした。“食べる”と言つ事は、体をつくるというのを忘れてしまつて、ただ美味しければいいとか、安ければいいとか、経済的な面にかなりウエイトが置かれた世の中がずっと進んできたのではないかと思つてます。でも最近、健康やいろんな面を考えると、そうではない考え方が出てきています。ただ、食べればいい、量的にいつぱいあればいい、安ければいい、というのだけではなくて、スーパーに行きますとプロッコリーが置いてあります。外国産のプロッコリーと日本産のプロッコリーでは、日本産のプロッコリーがぐんと高いです。それでも日本産のプロッコリーを手にする主婦の方が増えてきました。エンドウやインゲンでも高くても日本産のものを手にする主婦が増えてきました。私もいつもそうではないですけど、今日は少し高くてもいいものを、という事で日本産のものをカゴに入れて買って行くこともあります。

価値観を変えていく必要があるのかなと、今思つてます。食農教育の中でも、安全性、地域の発展、いろんな事を考えながら、食を考えていく子供達。食は健康の源です。ですからバランス良く食べる

とか、小さい頃から教育していくと、大人になつても安くて美味しければいい、だけではなく、安全性、地域性、総合的に全体的な事を考えながら、いろんな事を考えて選んで食材にできるという風になれればいいと思います。質問に答えなかつた様な気がしますが、ごめんなさい。

**“きっかけ”づくりが大切！**

佐々木(恵) 地元でとれた農産物を口にするというのは、きつと誰もが身近に簡単にできる、ふるさととの関わりだと思つています。時間も進んで参りましたが、今日はパネリストの皆さんにいろいろお話を伺いまして、その中でダツシユ村という活動をご覧頂きました。そういったきっかけをつくつてくれる環境が一番大切な訳です。その環境や機会、まずは家庭や地域や学校や社会がつくりだして、子供達に一步を踏み出させてあげて、道をつくつてあげれば、子供達はどんどん進んで行ってくれると思つています。

今日の会場は男性が多いですかね？お子さん、お孫さんのいらっしゃる世代だと思います。子供達に水土里との関わりを持たせてあげたらいいのではないかと、また

## フォーラム参加者の声

基調講演の内容を広く子供達に伝えた方がよい事に共感した。パネリスト達の地域における活躍はとても頼もしく、未来の農業に希望を持てる事を感じ嬉しく思いました。「東京より遠いところほど未来はある」の言葉どおりでした。(70代女性・主婦)

仁井田堰、稲川の活動報告は、視覚的にも活動内容をよく伝えて非常に良かった。今回の基調講演は本フォーラムにふさわしいものであった。「異文化体験の始まりは『食』から」食の大切さを想う。「交流は地域レベルから」地に足のついた交流が必要か。(50代男性)

活動をもっとPRして、秋田県内の学校に足を運び、教えるべきだと思います。体験内容を聞いていたら、私も参加したくなりました。毎回、ディスカッション形式ですが、少し余興(マジックや漫談など)を入れた方が、もっと多くの参加者が来てくれると思います。(40代女性)

子供達に水土里の大切さを感じてもらうには、まず給食に地産地消の食材をなるべく使って行くことだと思う。生産者を学校に招き、生産の大変さを話してもらうのも効果的と思う。全て女性による企画は良かった。今後も、県内の人材を発掘して育成活用して欲しい(40代男性)

土地改良区という団体が何をしているかが理解できたような気がする。いいことをしていると感じた。今後も地域のために活動してほしいです。あと、耳の聞こえない人もフォーラムに参加しているので、何らかの手段をとってほしいです。いろいろな話を聞けて楽しかったです。(20代男性)

今回の「わくわく探訪」に親子で参加しました。我が家では、家庭からの排水を考えて石けんを使っています。また、風呂の水を洗濯に使ったり、インスタント食品・ファーストフードは極力食べないようにしています。しかし、もっと根本的なことを勉強なくてはと強く感じました。今後もフォーラム・イベントに親子で参加して勉強していきたいと思いたい。(30代女性)

地球人会議も6回目にして、ようやく本来の姿というか、目標の姿になってきたと思います。特に今回は小学生の校長先生もパネラーとして出席した事が、これからの一つの方向として非常に良かったと思います。将来を担う子供を抱き込んだ会議にしていけたら良いと思います。(50代男性)

本日のフォーラムで一番感じた事は「子供」については知る事より体験が大切な事であり、大人もこれから体験がたくさん必要のようです。本当にとっても素晴らしいフォーラムでした。水土里の企画で、自然を感じてくれる子供達が増えてほしいです。(50代女性)

子供達に農村・農業の役割を伝えるために、様々な事業活動を行っていることがよくわかりました。子供と一緒に参加してみたい企画もあったので、もっと広報活動を活発にして大勢の人に知ってもらえたら良いと思います。私は子供に一番大切なのは「生きる力」だと思っています。今日の話聞き、自分の子供達にももっと厳しくいろんな体験をさせたいと思いました。(30代女性)



# パネルディスカッション

今日の話の中での「意見」質問などおありになる方、いらっしやいますでしょうか?

本当に家庭から地域から、いろんな場から発信していける事だと思います。私達人間の生命を育む、農業や食料、水、土、自然、ふるさと、この水土里ですね、そういったものを愛する、また大切にすることを願って、パネルディスカッションを閉めて参りたいと思いますが、秋田の子供達、地球の子供達みんなにしっかりと芽生える事を願って、パネルディスカッションを閉めて参りたいと思いますが、最後にこれは言っておきたい事がありました。

あん先生、どうでしょうか。この水土里と子供たちとの関わりについて、これからどんな風に進めていったら良いかをまとめて頂ければと思います。

“未来は明るい” 今後に期待

あん 逆に今日は感銘を受けています。この「地球人フォーラム」はこんなに軌道に乗っていて、わくわくさせてくれるような気分になりました。ものすごく積極的に、短期間に活動をやってるので、アドバイスよりも、来年、再来年と、どんな活動をするかすごく楽

しみにしているんです。子供だけじゃなくて、大人も現場に連れてきたりして、割と良い方向には行ってるんじゃないかと思えます。いつも思うんですけど「東京から遠い地域ほど未来は明るい」と思います。

子供たちの心を育むのは……

佐々木恵) はい、「未来は明るい」という心強いコメントを頂きました。今日は、「共に語ろう!水土里とあきたの子供達」というテーマでお話を進めて参りました。子供達の心を育んでいくのは、私達大

人であり、社会であるという事を今日パネリストの皆さんの話を聞いて強く感じました。皆さんにはそれぞれの立場で、今後ご自身の活動を更に発展させていって頂きたいと思えます。どうもありがとうございました。

そして皆さん、長時間に渡りましてのご静聴ありがとうございました。

(パネルディスカッション 終了)

ページの関係で一部内容をカットしております。

平成16年度

# 地球人会議 活動状況



## 1 会議・イベント等の開催

### 「平成16年度幹事会・運営委員会」の開催

内 容:平成15年度収支決算、平成16年度事業計画等の承認  
日 時:平成16年5月21日(金)  
場 所:水土里ネット秋田・第1会議室(秋田市)  
参加者:幹事3名、運営委員9名



### 「清水の郷 わくわく探訪」 ～土地改良施設巡り～の開催

内 容:秋田市と大曲市の児童・保護者が参加して、農業水利施設や農業農村整備事業を見学。水の大切さ、施設の役割、生態系に配慮した事業などを学習する。  
日 時:平成16年7月10日(土)  
場 所:六郷湧水群(六郷町) 関田円形分木工・関田頭首工(六郷町) ほ場整備事業土崎・小荒川地区(千畑町) 仙北用水管理センター(大曲市)  
参加者:170名



### 「地球人フォーラム2004」の開催

内 容:「共に語ろう! 水土里とあきたの子供たち」をテーマに、自然や農業・農村と子供たちの係わりについて、女性の視点を中心に意見を交わす。  
・秋田県21創造運動表彰式&事例発表  
・基調講演「伝えよう! 豊かな自然を子供たちへ」/  
あん・まくどなど  
・パネルディスカッション「共に語ろう! 水土里とあきたの子供たち」  
・感想文朗読「清水の郷 わくわく探訪」等  
日 時:平成16年9月4日(土)  
場 所:秋田拠点センター・アルヴェ(秋田市)  
参加者:約280名

## 2 会員への情報提供

県・水土里ネット等が主催する各種行事に関する情報提供

### 情報誌等の配布

地球人フォーラム2004でパンフレット等を配布  
・「水のたび」(水土里ネット秋田発行)  
・「創造の世紀 水土里ネット《21創造運動》」  
(全国水土里ネット発行)

### 会報の発行

「大地の恵み vol.6」を会員に配布(発行予定:平成17年3月)

### インターネットを利用した情報提供

<http://homepage2.nifty.com/akidoren/>(水土里ネット秋田)  
<http://www.inakajin.or.jp/chikyu/kaigi2.htm>(全国水土里ネット)

## 3 他団体が主催する行事との連携

### 「秋田県21世紀土地改良区創造運動 表彰選考委員会」(連携)

内 容:21創造運動との連携を図ることから、新設の「秋田県21創造運動表彰」の選考委員として委員会に参加し選考審査を行う。  
日 時:平成16年6月18日(金)  
場 所:水土里ネット秋田・第1会議室(秋田市)  
選考委員(地球人会議運営委員関係):佐藤万里子、長谷山 光、藤井 明

### 秋田竿燈まつり(参加)

内 容:秋田竿燈まつりにおいて、竿燈の出竿及びPR用うちわの配布を行い、まつりに参加。  
日 時:平成16年8月3日(火)~6日(金)  
場 所:秋田市竿燈大通り  
参加者:約30名



### 「農業農村整備フェア」(共催)

内 容:種苗交換会の協賛行事である「農業農村整備フェア」に参加。  
日 時:平成16年10月29日(金)~11月4日(木)  
場 所:大曲市武道館(大曲市)  
来展者:約5,000名

## 4 その他

「21世紀土地改良区創造運動」との連携  
農業関係者以外の会員募集の強化

# 清水の郷

～ 土地改良施設巡り ～

## わくわく探訪

7月10日(土)、農業施設などを巡る「清水の郷 わくわく探訪」が大曲市、六郷町、千畑町で行われた。秋田市、大曲市の小学校児童と保護者合わせて170名が参加し、農業水利施設やほ場整備事業の様子、用水管理センターなどを見学した。「わくわく探訪」は、子供たちに農業水利施設

などを見学してもらい、農業・農村について理解と関心を持ってもらおうと毎年水士里ネット(秋田)秋田県土地改良事業団体連合会)が実施してきたが、8回目の開催となる今年も、あきた食料・環境・ふるさとを考える地球人会議(高畑進会長、会員約1200名)の主催で開催された。

一行ははじめに六郷町を訪れ、役場前での開講式に続き、町の観光ガイドの案内で3カ所の清水を回りながら、湧水の仕組みや町全体が清水と関わりを持っていることを学んだ。その後水士里ネット七滝(秋田県七滝土地改良区)が管理している関田頭首工・関田円形分水工へ移動し、職員から施設の役割や農業用水の大切さなどについて説明を受けた。分水工では、180個の穴から勢いよく流れ出す水を目の当たりにした児童から歓声が上がっていた。

しか生存しないとされている淡水魚で県版レッドリストで、絶滅危惧種「A類」に分類されている)を観察したりした。

引き続き、大曲市の水士里ネット仙北平野(秋田県仙北平野土地改良区)を訪れ、8市町村の水田約1万ヘクタールに流れる用水を制御管理しているコンピュータシステムがある、仙北平野用水管理センターを見学した。

参加した子供たちからは、各施設で盛んに質問したり熱心にメモを取ったりする姿が見受けられ、関心の高さがうかがえた。農業農村整備事業の広報活動の一環としてスタートした「わくわく探訪」も、秋田市内の小学校ではある程度定着してきており、今年も過去最高の参加者数となった。主催者側にとっては嬉しい悲鳴となったが、今後は更なる活動の輪を県内各地に広げていきたいと思っている。

なお、この「わくわく探訪」の様子は、当日AKT秋田テレビで夕方のニュースで報道され、翌日の秋田魁新報でも紹介された。



関田円形分水工で説明を聞く子供たち



イバラトミヨの観察



六郷町・藤清水にて



用水管理センター前で記念撮影

「清水の郷 わくわく探訪」は今年から、「あきた食料・環境・ふるさとを考える地球人会議」が主催

「地球人フォーラム2004」で、発表を行った2人の感想文を紹介します。



## 清水の郷 わくわく探訪 での思い出

秋田市立旭川小学校6年  
武内 友佳さん

私はこの「清水の郷わくわく探訪」の予定はどれも楽しみでした。その中でも一番楽しみで、そして一番楽しかったのが清水めぐりでした。

けっこう暑く、歩くのが大変だったけど、清水につくたび、水の冷たさに感動したのはこの暑さのおかげかなとも思いました。

清水で作った「ニテコサイダー」はその場で飲まず、家で家族みんなと飲みました。そのほどよいあまさと清水で冷した冷たさがキンキンに冷えたラムネのような味でした。

清水の水はそんなに苦みがなく、水道水と比べものにならないほど、無色・無味でした。

六郷の清水は場所によって使う方法がちがうときいて、びっくりしました。同じ地下からわき出ている水なのに、冷たさも、

使いかたも違う水になるのを知りました。また、六郷にはさまざまな清水が六十個もあり、その清水が六郷の人々の生活においてかせないもの、生活必需品となっている、つまり六郷の人々と共に生きているようなものになっていることも分かりました。

私は今回の「清水の郷わくわく探訪」で都会にあこがれをいただいていた気持ちが少しうすれました。わけは秋田には秋田で、東京にはない「自然」という良い所をもっています。

この「自然」は私も大好きです。そこにキレイでおいしい清水をみて、「東京もいいけど、秋田もいいところあるなあ」と思うようになりました。こんないいところをみつけた、「清水の郷わくわく探訪」またこのようなイベントがあったら、参加してみたいと思います。



## 楽しい思い出 になった 清水の郷

秋田市立四ツ小屋小学校5年  
佐野 円香さん

私がこの水土里ネットのイベントに参加したのは二回目です。

最初にニテコ清水に行きました。ニテコ清水の水はとてもきれいでした。今までこんなにきれいな水は本当に見たことがありませんでした。きれいな水がある所は必ず空気が気持ちよくて、周りに木や草などがあります。でもきれいな水の所にゴミなどを捨てていたら、周りの人も気持ちよくないと思うし、空気も悪くなってしまうので私は絶対に捨てないし、ほかの人もゴミを捨てないでほしいと思います。

藤清水と御台所清水の水も、とてもきれいでした。六郷町には清水が六十ヶ所もあり、六郷町の人々は昔から清水と共に生活してきました。また、ニテコ清水の流しそうめん、サイダーなどが特に知られているそうです。

次に関田円形分水工に行きました。分

水工に集められる水は、近くを流れる丸子川から関田頭首工によって導かれていて、水そうに集められた水は、百八十個の穴により、七つの水路に分配しているそうです。

千畑町の古しず・仁平衡清水には、イバラトヨミという魚がいました。イバラトヨミは絶滅のきけん性が極めて高いということで、また氷河時代の生き残りとされるイバラトヨミは水温が年間を通して十五度前後のきれいなわき水のある所に住んでいるということがはじめて分かりました。

次に仙北平野用水管理センターに行ってビデオを見ました。ビデオを見て分かったことは昔の人はたくさんの作物を作るために水はなくてはならない物だから、安全に注意して管理していたことです。

今回のイベントに参加して水の大切さに改めて気付きました。これからは水を大切に、弟や妹にも教えてあげたいです。

# 食料

syokuryou

## 自給率40%

### データで見るニッポンの食 について考えよう



**豊かな国、ニッポン！  
あなたは何を食べて  
いますか？**

食卓にあふれる食べもの。ご飯にパンに、麺類。野菜に肉に、魚介類。果物に菓子……。その多くが海外から輸入され、日本の食卓は大きく世界に依存しています。今や、日本の食料自給率はわずか40%（カロリーベース換算）。ほかの主要先進国はどのようでしょう。ドイツは91%、アメリカは119%の自給率を誇っています。確かに日本も40年前、1965年当時は73%でした。にもかかわらず、急激に下がった理由は、国内の生産が減ったこともあり、それがそれ以上に、わたしたちの食生活が変化したことにあります。

まず、主食である米は現在、自給率が95%にもかかわらず、その

の消費量は格段に落ちています。

そして、油の原料である大豆やなたねの栽培を海外に頼らざるを得なくなりました。それと同時に、肉類の消費が増え、牛など畜産物のエサ（飼料穀物）の多くを海外に依存していることが、自給率を低下させた主な原因です。毎日の食卓を見直すこと。それは、日本の未来につながっています。

### 食料自給率40% どう思いますか？

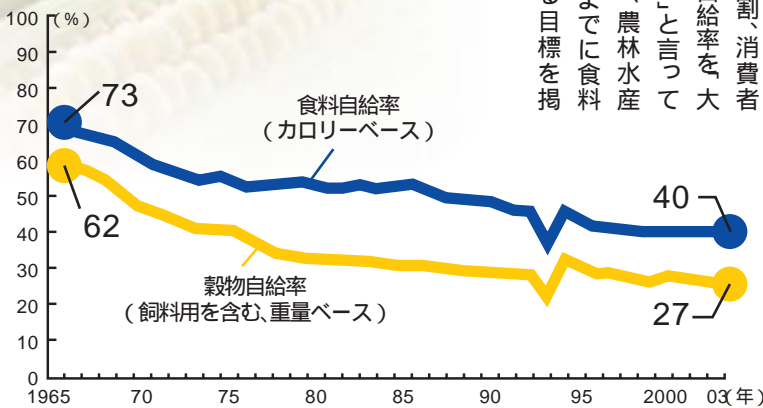
食料自給率40%という低さをあなたはどう思いますか？2003年に、農林水産省が全国の農業者と消費者にアンケートを取ったところ（回答者数：農業者2667人、消費者1294人）、「非常に不安」と答えた人は、農業者で約6割、消費者は約4割

「不安」と回答しています。

また、農業者で9割、消費者で8割の人が食料自給率を大幅に引き上げるべき」と言っています。そして現在、農林水産省では、2010年までに食料自給率を45%にする目標を掲げています。

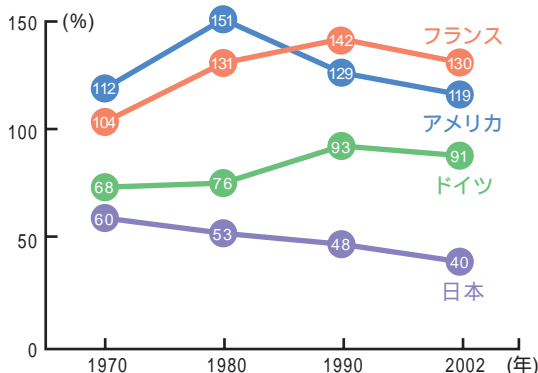
### 食料自給率は低下し続けている！

食料自給率の動向



### ほかの国と比較してみれば...

主要先進国の食料自給率(カロリーベース)



### 主な農産物の自給率を知っていますか？

主要農産物の品目別自給率(平成15年度)



自給率(%)

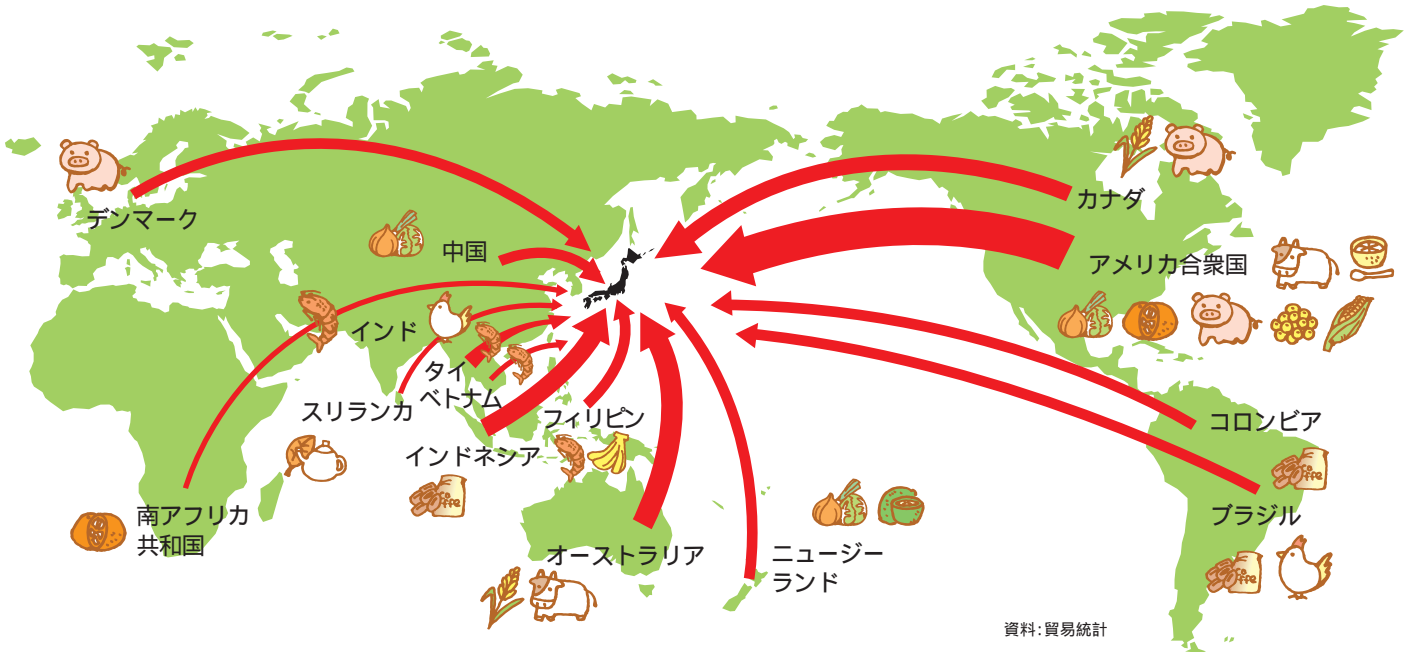
資料：農林水産省「我が国の食料自給率(平成15年度食料自給率レポート)」



それは、その国の“水”と“土”を買っていることになります。

# あなたははどこでつくられた食べものを口にしていますか？

日本に輸入されている主な食料



資料:貿易統計

## フードマイレージって何？貯まってる?!

### 輸入農産物の輸送による環境への負荷を数値化

フードマイレージは、1994年にイギリスの消費者運動家ティム・ラング氏が、食料の生産地から食卓までの距離に着目し、なるべく近くで取れたものを食べようと提唱した「フードマイルズ」に基づいています。「フードマイルズ」とは、食料を輸送すると、輸送のためにエネルギーを大量に消費し、環境に負荷を与えている。そこで、近くのものを食べ、環境への負荷を軽くしようという運動です。これを日本の研究所が、輸入食料に当て

はめ、新たに「フードマイレージ」として、輸入食料を考える新たな指標を生み出しました。フードマイレージは、輸入の距離に着目し、次のような計算式で、輸入による環境への負荷を数値化しています。

$$\text{フードマイレージ (t} \cdot \text{km)} = \text{輸入相手国別の食料輸入量 (t)} \times \text{輸出国から日本までの輸送距離 (km)}$$

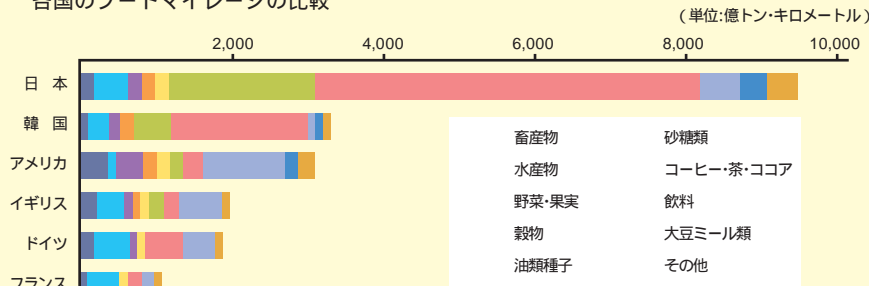
輸送距離とは、各国の首都と東京をつないだ直線距離

なるべく近くで取れた食べものを食べよう！という考え方から生まれたフードマイレージ

つまり、フードマイレージが大きければ大きいほど、環境に負荷を与えているのです。ある研究では、日本の全輸入食料のフードマイレージは9,002億・kmと計算されています。アメリカや韓国、ほかの先進国と比べてみると、驚くことにその3～8倍です。そして輸入相手国を見れば、アメリカが約60%を占め、輸入国が偏っていることもわかってきました。なるべく近くで取れたものを食べることは、環境保全にも貢献しているのです。

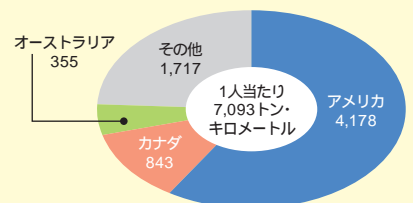
### 輸入食料のフードマイレージが高い日本

各国のフードマイレージの比較



### フードマイレージから見る輸入相手国

日本人1人当たりのフードマイレージと輸入相手国の割合 (単位:トン・キロメートル)



資料:中田哲也「フード・マイレージ」の試算について、農林水産政策研究所レビューNO.2(2001年2月)

# 水<sup>み</sup>土<sup>ど</sup>里<sup>り</sup>の路

# ウォーキング

21創造運動との連携

水土里の風を受け、豊かな自然と歴史を体感

6月13日(日)、秋田市の仁井田・四ツ小屋地区を歩きながら豊かな自然と歴史を味わってもらおうと、水土里ネット仁井田堰仁井田堰土地改良区)と県ウォーキング協会主催による、水土里のまちウォーキングin仁井田堰walk」が開催された。

この大会は、昨年が続いて2回目。14kmと6kmの部に秋田市内外から約250名が参加した。水土里ネット仁井田堰・上村理事長が、先人が築き、私たちが地域資源とし



## 水土里のみち ウォーキング 仁井田堰 walk

水土里ネット仁井田堰  
(仁井田堰土地改良区)  
〒010-1421 秋田市仁井田本町4-5-20  
☎018-839-2504 ㊟018-839-2292

## 水土里の路 湯沢大堰 ウォーキング ウォッチング



水土里ネット湯沢中央  
(湯沢市中央土地改良区)  
〒012-0862 湯沢市関口字道地26  
☎0183-78-0670 ㊟0183-78-0671

地域共有資源の再発見を目指して

10月23日(土)、湯沢市の中心部を流れる湯沢大堰沿いを歩きながら、先人が開削した施設と佐竹南家400年の歴史にふれてもらおうと、水土里ネット湯沢中央湯沢市中央土地改良区)主催、秋田県や湯沢市、湯沢市教育委員会などの共催による「水土里の路 湯沢大堰ウォーキング&ウォッチング」が開催された。

この大会は、先人が暮らしたの調和の中で育み、美しい地域資源として守ってきた湯沢大堰の

農林水産省では、都市住民や農村の地域住民に余暇を利用したウォーキング体験を通じて、農業用水の役割や大切さ、農業水利施設の役割など農業・農村の多面的機能に対する認識を深めてもらおうと、平成15年度から「水土里の路ウォーキング」の開催を呼びかけています。

県内各地でも、水土里ネット(土地改良区)が中心になり、『21世紀土地改良区創造運動』との連携を図りながら、田園や施設の周りを歩きながら地元にある豊かな自然と歴史を味わってもらおうと、ウォーキングが開催されています。

このうち、平成16年度に県内2カ所で開催された、水土里の路ウォーキングを紹介します。

# 水土里の路 ウォーキング



て守っている農業用水路や田圃の風景を見ながら、楽しんで歩いてください」と挨拶した後、参加者は県中央地区シルバーエリア駐車場(同市御所野地区)をスタートし、四ツ小屋幹線水路(仁井田堰)やせせらぎ水路沿いなどを歩いた。

このうち6kmコースは、家族連れの姿が目立ち、農業水利施設の整備状況を確認したり、やぶれ沼(農業用ため池)や白山神社などで同地区の歴史を学びながらウォーキングを楽しんだ。また、14kmコースでは、休憩ポイントとなつた仁井田堰頭首工で水土里ネット職員による施設説明がなされ、景観を楽しみだけでなく、施設の機能や役割といった視点にも参加者の目が向けられていた。

スタッフ

の拍手で出迎

られ、

参加者

には、

完歩証と

JA提供

の「あき

たこまち

がプレゼ

ントされ

た。また、

ゴール脇

には地元

農家によ

る野菜直売

所が設けら

れ、新鮮な

野菜を求め

る参加者で

賑い、地域

一体となつ

た活動である

ことを

実感した。

主催した

水土里ネット

仁井田堰

からは、上

村理事長を

はじめ理事

役員、職員

など約20名

がスタッフ

として運営

に参加した。

21世紀土

地改良区創

造運動の一

環として、

昨年からス

タートした

このウォー

キングは、

(社)日本ウ

ォーキング

協会、国土

交通省等が

選定している

、美しい日

本の、歩き

たくなるみ

ち、500選

候補にも推

薦されており

、地域のイ

ベントとし

て定着しそ

うである。



主催した水土里ネット仁井田堰からは、上村理事長をはじめ理事役員、職員など約20名がスタッフとして運営に参加した。21世紀土地改良区創造運動の活動の一環として、昨年からスタートしたこのウォーキングは、(社)日本ウォーキング協会、国土交通省等が選定している、美しい日本の、歩きたくなるみち、500選候補にも推薦されており地域のイベントとして定着しそつである。



果たす多面的機能を広く地域住民に理解してもらおうと、初めて開催され、当日は小学生や市民周辺地域などから約250名が参加し、木の葉色づく湯沢大堰沿いの隠れた名所・旧跡を探訪した。

参加者は、受付で配布されたコースガイドを片手に、10kmと6kmの2コースに分かれてスタート。コース途中の頭首工や分水工などで水土里ネット職員から施設の機能や役割について説明を受けるとともに、水路沿いの名所・旧跡では、市の自然観察員や図書館長の話を傾けていた。

ゴール地点では、完歩者にあきたこまちの初発芽玄米、芽吹物語がプレゼントされたほか、各種リーフレットや農業用水の役割を紹介したパンフなどを配布し、農業水利施設の重要性をアピールしていた。

湯沢大堰は、雄物川を水源として約400年前に開設された農業用水路で、古くから物資を輸送する運河機能や防火用水、生活用水としても利用されており、地域の動脈的な役割を果たしている。同水土里ネットでは、この貴重な地域共有資源を広く地域住民に理解してもらうための活動を今後も継続していきたいと考えている。



# あなたの声が“原動力”! 一緒に活動に参加しませんか。

## 【食料】

我が国の食料自給率は40%。もし、輸入農産物がなかったら...。  
食料自給率の向上は、私たち一人ひとりの課題です。

## 【環境】

「水」「土」「里」は私たちが生きるために必要です。  
今、安全・安心なものはどれですか？

## 【ふるさと】

緑豊かな田園。心の豊かさと安らぎ、そして人間らしさ...。  
あなたは、子供たちに何を伝えますか。



「たがやす」第6回写真コンクール入賞作品

「あきた 食料・環境・ふるさとを考える地球人会議」は、安全な食料の確保のため、環境に優しい社会の創造のため、そして緑豊かなふるさとを子供たちに引き継ぐため、みんなで考え、発言し、行動する組織です。一人ひとりの力が活動の原動力です。みなさんの参加をお待ちしております。

### 地球人会議の活動内容

- シンポジウムやセミナー等の開催と参加
- パンフレットや情報誌等の発行
- アンケート調査等による会員との意見交換
- インターネット等を活用した会員との情報交換

### （お願い）

情報誌「大地の恵み」は、年1回会員の方々に配布しています。住居変更があった場合、情報誌の配布を希望しない方は、お手数ですが事務局までご連絡ください。



この印刷物は地球にやさしい大豆油インキで印刷されています。



古紙配合率100%再生紙を使用しています。